

兵庫県立国際高等学校

(研究テーマ) 防災×国際 地域の防災意識を高める

《活動の要旨》

阪神大震災から30年という節目を迎える年なので、防災について取り組もうと考えた。また、本校は国際科のみからなる高校であり、英語など言語・コミュニケーションや海外の人との交流に興味がある生徒が多い。本校の近くには外国人の方が多く住まれており、その方々の防災意識を引き上げることをテーマにした。

○令和6年7月 人と未来防災センター訪問 防災について学ぶために、神戸にある「人と未来防災センター」を訪問し施設見学をした。また、阪神大震災の被災状況や震災が起きた時どのような問題が起きたのかを語り部さんの話を聞いて学んだ。

○令和6年9月 JRC 部員で防災ゲーム「ダイレクトロード」を実施 ゲームを通して情報共有の大切さや、被災時に対処すべき4つのこと「消化・救護・救助・避難」について学んだ。日頃から防災意識を高め、緊急時に備えて準備をしておく必要性を再認識した。

○令和6年10月 防災ボトル作成 JRC の部活動で防災ボトルの作成を行った。自宅以外で被災した際にあると便利なものは何か、実用性のあるものを話し合いボトルの中身に入れるものを選定し、作成した。新聞紙で作るスリッパや、ロープワーク（もやい結び・トートラインヒッチ）の練習も行った。

○令和7年1月 防災ワークショップ①（青少年赤十字3学期例会） 3学期例会参加者を対象に防災ゲームと防災ボトル作成を行った。参加者からは「地震が起きた時に、どのように行動しないといけないかがイメージできた。」「自宅にどれだけ食料やトイレの備蓄があるのか調べておこうと思った。」「マンションに住んでいるので、消火器の位置を確認しておこうと思った。」などの感想が聞けた。同日には神戸第一高校が炊き出し体験を行っており、防災に向けて意識を高めることができた1日となった。

○令和7年3月 防災ワークショップ②（神戸国際語学院） 西宮市にある神戸国際語学院にて、留学生20名（バングラディッシュ人・ネパール人）を対象に防災ワークショップ（防災ゲーム・防災ボトル作り）を行った。神戸市が提供している防災ゲーム（ダイレクトロード）で使用されている日本語を外国人にもわかるレベルに書き換えて、防災ゲームを行った。ネパールで以前に大地震があったことや、バングラディッシュも洪水などの災害が多い国ということもあり、留学生たちは熱心に取り組んでいた。本校の生徒2人と留学生4人の6人グループで行い、留学生が理解できない表現などを本校生徒が説明しながら無事にゲームをすることが出来た。その後に防災ボトルを一緒に作成し、ワークショップは終了した。ゲームの日本語のレベルに改善の余地があると思われた。この1回で終わらずに、今後も神戸国際語学院やその他の語学学校を訪問し、防災ワークショップが継続したいと思う。

○令和7年3月 防災食試食会 防災トイレ体験会 JRC 部員を対象に防災食と防災トイレを体験する会を実施した。防災食を初めて食べる生徒が多かった。「防災食ではあるが、

どれも味が良く、被災時に美味しいご飯を食べることができるとほっとできると思う。」家に食料の備蓄があるかどうか気にしたことがなかったから、家に帰ったら確認してみようと思った。」などの感想が聞かれた。また、本校は兵庫県下全域から生徒が通っており、姫路や淡路島、三田、猪名川など遠方から電車で通っている生徒が多い。「学校で被災した際に公共の交通機関がストップすると、自宅まで帰ることが出来ずに学校に閉じ込められる生徒がでてくる可能性があるのでは」と話しあった。「人と防災未来センター」に訪問した際に被災した際に問題になるのは食料よりもトイレであると学んだことから、防災トイレの備蓄の必要性に気づいた。

様々な活動を通して、防災について考える良い機会となった。自分達が災害に備える大切さと同時に、地域に暮らす人たちとも被災時に落ち着いて行動ができるように、防災に関して学び続け、そこでの気づきを発信し続けることが出来ればと思った。

以上



令和6年7月 人と未来防災センター訪問(1)



令和6年7月 人と未来防災センター訪問(2)



令和6年10月 防災ボトル作成(1)



令和6年10月 防災ボトル作成(2)



令和7年1月 防災WS 青少年赤十字3学期例会(1)



令和7年1月 防災WS 青少年赤十字3学期例会(2)



令和7年3月 防災WS 神戸国際語言学院(1)



令和7年3月 防災WS 神戸国際語言学院(2)